

◁ 檀 信 徒 必 携 ▷

遊行 74代 たあしんえんしやうにんげいか 他阿真円上人猥下

御 親 教 記 念



本山で御賦算（お札くばり）をされる真円上人猥下

仏守山 義国院 青蓮寺

376-0054 群馬県桐生市西久方町1-10-11

TEL 0277-22-5268 FAX 0277-44-9085

ホームページ <http://www.shorenji.or.jp> <http://www.shorenji2.com>

青蓮寺壇信徒必携もくじ

はじめに（巻頭文）	．．．．．	－ 2 －	
【1】御親教とは	．．．．．	－ 3 －	
①授戒会	②因縁血脈	③過去帳入り	④そのほかの御回向
【2】時宗の総本山『遊行寺』	．．．．．	－ 5 －	
・遊行寺の主な見所	．．．．．	－ 5 －	
①歴代上人御廟所	②怨親平等の碑（敵御方供養塔）	③俣野権現	
④宇賀神（弁財天）	⑤宝物館		
・遊行寺の主な行事・法要	．．．．．	－ 6 －	
①春の開山忌（4月21~24日）	②秋の開山忌（9月21~24日）		
③歳末別時念仏会（11月18～28日）	④薄念仏会（9月15日）		
【3】時宗の宗祖『一遍上人』	．．．．．	－ 7 －	
青蓮寺に対しての理解を深めるために			
【1】青蓮寺の沿革	．．．．．	－ 10 －	
【2】青蓮寺の本尊様について	．．．．．	－ 11 －	
【3】御前立ち阿弥陀如来由来	．．．．．	－ 13 －	
【4】欄間彫刻並びに須弥壇	．．．．．	－ 14 －	
【5】永代供養墓苑『アユスの郷』	．．．．．	－ 16 －	
【6】インド仏跡への散骨供養	．．．．．	－ 16 －	
【7】ペット供養	．．．．．	－ 17 －	
【8】半僧坊大権現	．．．．．	－ 17 －	
【9】檀家としての資格要件について	．．．．．	－ 17 －	
【10】檀家としての心得	．．．．．	－ 18 －	
【11】ご法事に際して	．．．．．	－ 18 －	
【12】お仏壇の飾り方	．．．．．	－ 19 －	
【13】お寺は皆さんが生きるために	．．．．．	－ 19 －	
【14】E メールアドレスの登録を	．．．．．	－ 20 －	
【15】蓮の寺です 現在13種類の蓮があります。	．．．．．	－ 20 －	
諸事項記録	．．．．．	－ 21～24 －	

平成23年10月24・25日、遊行74代他阿真円上人た あしんえんしやうにんげい か猯下の御親教を頂くに当たって、より理解を深めて頂くためにこの冊子を制作致します。

前回の御親教ごしんきやうは、遊行72代他阿一心上人いつしん猯下によるもので、昭和60年10月5・6日に、青蓮寺としては実に60年ぶりにお上人様をお迎えすることができました。今回は26年ぶりの御親教となります。月日の経つ早さを感じるものです。26年というと、世代交代もだいぶ進んでしまい、前回の御親教についてご存知の方も大分少なくなってしまったと思いますし、記憶も薄うすれてしまったとも考えられます。

去る3月11日、東日本を襲った大震災はマグニチュード9というとても大きく巨大なものでありました。発生した津波も記録にない強烈なもので太平洋沿岸地域じんだいに甚大な災害をもたらしました。また、考えても見なかった程数多くの尊とうとい命が失われたことにも強い衝撃しやうげきを受けることになりました。殉難横死者じゆんなんおうししやのみなさんのご冥福めいふくをひたすらお祈りするばかりであります。

青蓮寺でも本堂の壁が落ちるなど、若干の被害がありました。お檀家のみなさんの中にも、屋根の瓦が落ちるなどの被害が有ったことをお聞きしましたが、怪我けがをされた方はいらっしゃらないよう安堵あんどしたところであります。

追い打ちをかけるかのように福島県の原子力発電所の事故、未だ混乱が収まらない中ではありますが、私たちには改めて『生きることの意義』について深く考えるきっかけになったことだと思えます。

世間には物があふれ、贅沢ぜいたくの限りを尽くした生活を私たちは享受きやうじゆしてまいりました。そのことをたった3時間程の停電が数回実施されただけで思い知らされたのです。私たちが当たり前のこととっていたものが、実は当たり前でなかったのだと思い知らされた訳であります。

今、私たちは一遍上人のお念仏の教えのもとで生かさせて頂いています。このかけがいのない命には限りがあることも承知しなくてはなりません。どうしたらもっともっと充実した人生を歩むことが出来るのか、皆様に感じて頂きたい一大行事であります。

【1】御親教とは

時宗の宗祖一遍上人は念仏ねんぶつの悟りさとを得られてから亡くなるまで、ひたすらに念仏勧進ねんぶつかんじんの旅を続けられました。旅の途中、ここに止まって欲しいという要請も度々あったことでありましょう。立派な寺を建ててお迎えしたいと強くお願いをされたこともたくさんあったと思います。しかし、一遍上人は一所不住いつしよふじゆうの旅を貫き通されたので、遊行聖ゆぎようひじりと呼ばれました。

その法灯ほうとう（おしえ）を相続つらぬ（うけつぐ）された代々の上人は、一遍上人ならねんぶつかんじんに習い念仏勧進の旅をされましたので、遊行上人と呼ばれるようになります。行く先々でお念仏のお札をくばること（賦算ふざん）も、一遍上人以来の習わしとなっています。

世の中の仕組みが変わってしまった今日でもこの精神は受け継がれています。しかしながら、全国どこにでも勝手に旅してゆく訳にもまいりません。そこで各地にある時宗のお寺にお上人様自らお出かけになるようになりました。これを『御親教』と言います。

青蓮寺に前回お越し下さったのは遊行72代一心上人で、昭和60年の10月でしたから、実に26年ぶりのことになります。

御親教では、普段は本山に行かなくては受けることが出来ないご回向などを受けることが出来ます。

主なものとしては

①授戒会じゆかいえ

お坊さんになる時、時宗では伝宗伝戒加行でんしゆうでんかいげぎようというものを受けなくてはなりません。そこで、時宗のお坊さんとして必要な教えやお経・儀式の基礎が指導され、この加行を無事に修了した人だけが正式なお坊さんになることを許されます。加行以外にもいくつかの条件を満たさなくてはなりません、必須条件であります。

同じように、正式に時宗の信者として認められるために受けるものが、授戒会になります。この授戒会をお受けいただきますと、お坊さんと同じように戒名あごう（2文字）と、男性には阿号あごう、女性には弍号いちごうが授けられます。青蓮寺では、お通夜の時にはお位牌を置きません。それは没後授戒もつごじゆかいと言いまして、故人に授戒を受けて頂いている最中であるとの考えによります。

引導をお渡しして授戒が成立しますので、そこで戒名をお授けさせていただきます。

ですから、授戒を受けて頂いた方が亡くなった場合には、最初から戒名で御回向をすることが出来ますし、一遍上人の教えのもとで生活させて頂くという自覚を持って、より充実した人生を歩んで頂けることと思います。

② 因縁血脈

授戒の中の一部なのですが、2500年前のお釈迦様から今日まで沢山の方々の尽力のお陰でその教えが今の私達に伝えられました。

お釈迦様・大乗仏教の教えを確立された龍樹菩薩・中国で浄土の教えを高められた善導大師・日本で浄土宗を開かれた法然上人・西山浄土宗を開かれた證空上人・一遍上人の師匠である聖達上人をはじめとして沢山の高僧を経て一遍上人へ、そして代々の遊行上人へと受け継がれた教えに今私達は仏弟子として触れることが出来たのです。そのことを自覚し感謝申し上げるものです。

③ 過去帳入り

なんども申し上げてきましたが、一遍上人以来、代々のお上人様は念仏勧進の旅（遊行）をすることを旨としてまいりました。この旅の中にあっても、常に過去帳を携えています。この過去帳のことをお手元過去帳と言って、常にお上人様のおそばでお上人様のご供養にあずかることが出来ます。この過去帳に記入して頂くことを過去帳入りと申します。

④ そのほかの御回向

法要の際に合わせて御回向をして頂くのが付け回向、お施餓鬼の供養これらは地方の各寺院（末寺）でも行われていますから特別な御回向ではありません。しかしお上人様自らが導師となられるとなると簡単にはいきません。本山まで出向いてお願いをしなくてはならないことでもあります。これでは誰もが実現できるとは限りません。

御親教でお上人様が直々にお越しになって、初めて誰もがお上人様を導師としての御回向に預かれることとなります。

⑤ その他には、檀信徒特請（檀信徒の方が自宅にお上人様をお招きすること）やお名号などを御染筆して頂くことなどがあります。

【2】時宗の総本山『遊行寺』

お正月の箱根駅伝をテレビでみなさんはご覧らんになっていることだと思います。藤沢市に『心臓破りの遊行寺坂』がありますよね。特に復路、戸塚中継所を目前にした急な坂道で、勝負の分かれ目になる場所として有名です。この遊行寺坂があるところに総本山遊行寺があります。

遊行寺は4代吞海上人が、ご自身の隠居寺として建立けんりゆうしたお寺なのですが、それ以降時宗の活動拠点となりました。遊行上人が居いるお寺ということで『遊行寺』と呼ばれ藤沢市民のみなさんに親しまれていますが、本当は『清浄光寺』と言います。

江戸時代、藤沢は東海道の宿場町として、遊行寺の門前町として栄えました。また、遊行寺の坂を下ったところから江ノ島に向かう道があり、交通の要所でもありました。

有名な浮世絵・安藤広重の東海道五十三次、『藤沢宿』の場面には遊行寺の本堂と江ノ島が描かれています。また、江ノ島神社の一の鳥居の礎石そせきは、遊行寺宝物館の入り口に置かれていて、往時しのを偲ぶことができます。



遊行寺の境内には樹齢700年を超えるといわれる大銀杏おおいちようが本堂の前にそびえ立っています。もう30年以上経つのですが、台風の大風で上三分の二が折れてしまいました。今はすっかり回復して遊行寺の象徴としての存在かも感を醸し出しています。

・遊行寺の主な見所

①歴代上人御廟所ごびようしよ

歴代の遊行上人のお墓の多くが、本堂の裏手の御廟所たたずで木々に守られ静かに佇んでいます。

②怨親平等の碑おんじんびようどう（敵御方供養塔てきみかたくようとう）

上杉禅秀うえすぎぜんしゆうの乱らんのあと、遊行14代太空上人たいくうは敵味方の区別なく負傷者を手当てすると共に戦死者を葬りました。日本最古の敵味方供養塔であり、時宗の博愛精神を表すものとして国史跡に指定されています。

怨親平等の碑



またのごんげん
③ 俣野権現

遊行 4 代吞海上人の実兄といわれ、遊行寺建立に際して大檀越だいたんえつとなった
またのごろうかげひら まつ
俣野五郎景平を祀るものです。



うがじん べんざいてん
④ 宇賀神 (弁財天)

徳川氏の祖、徳阿弥そ とくあみが所持していた
守り本尊と伝えられています。社殿は
紀州徳川家が寄進、その後社殿再建に
あつたては費用を徳川幕府が寄進して
います。遊行寺の銭洗い弁天ぜにあらとして藤
沢市民に親しまれています。歴代上人
の御廟所に隣接していて、清らかな水が絶えることなく湧き出わています。

⑤ 宝物館

文化財にも指定される数多くの遊行寺所蔵の宝物が納められ、展示もさ
れています。

・ 遊行寺の主な行事 ・ 法要

かいさんき
① 春の開山忌 (4月21～24日)

遊行寺を開山した吞海上人の法要が行われます。

② 秋の開山忌 (9月21～24日) 宗祖一遍上人の法要が行われます。

さいまつべつじねんぶつえ
③ 歳末別時念仏会 (11月18～28日) 別時念仏会では歴代上人のお名号が本尊

11月27日の一ツ火は、全山
の明かりが消された漆黒しつこくの本堂
で、火打ち石により新たな火がと
もされます。1回しか火打ち石を
打つことが許されないことから一
ツ火と呼ばれ、多くの参拝者が本
堂を埋め尽くします。



27日の夜の一ツ火と28日の

おおおんだい しき
大御台の式のみが公開されます。本来は名前の通り大晦日から元旦にかけ
おおみそか
ての行事でありました。

すずきねんぶつえ
④薄念仏会（9月15日）

奥州江刺（北上市）に聖塚と呼ばれている場所があります。流罪になり
異郷で果てた祖父河野通信公のお墓で、一遍上人と同行の時衆（弟子）が
その周りを、念仏行道して供養した古事によるとされています。国宝『一
遍聖絵』にもその場面が描かれていて、塚の上には穂を出したススキを見
る事が出来ます。

大きな花瓶にススキと笹名号と呼ばれるお名号をかけた笹竹を活け、そ
の周りを回りながらお念仏を称えます。

藤沢・江ノ島・鎌倉方面にお出かけの際には是非本山にもお参りください。

【3】時宗の宗祖 『一遍上人』

一遍上人は鎌倉時代の末、延応元年(1239)
に今の愛媛県松山市道後で、瀬戸内海を拠点
とする豪族であった河野通広公の嫡男として
生まれました。

祖父通信公は、壇ノ浦の合戦で平家滅亡の中
心的な活躍をし、鎌倉幕府で3番目の地位を
獲得したのですがその後の承久の乱で失脚し
てしまい、一遍上人が生まれる頃には一地方
の落ちぶれた豪族となっていました。

10歳の時母に死なれ、13歳の時に父通
広公の命により親交のあった九州太宰府の浄土宗西山派の聖達上人の下で
出家し、華台上人の下で1年間仏教の基礎を、その後聖達上人の元に戻り
浄土宗西山派の教義を学びます。父通広公は西山派の祖證空上人の下で聖
達上人と共に修行をした間柄で、如仏と名乗り半僧半俗の生活をしていま
した。

25歳の時、父通広公が亡くなり家督を継ぐために還俗をします。半僧
半俗の生活は13歳で仏門に入った青年にとって、極めて悩み多いもので
あったようです。



29歳の時、^{すべ}全てを^す捨てて修行の道に戻ってしまいます。その後35歳の時、郷里を出て遊行の旅がはじまります。大阪の四天王寺で^{さんろう}参籠された時に念仏の^{ふだ}算（札）を作り、道行く人たちにくばり念仏^{かんじん}勧進をしながらの旅となります。時宗ではこの時点を第一の^{さと}悟りとしています。

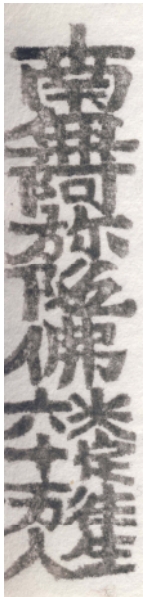
一遍上人は、四天王寺から和歌山県の高野山を参拝し、熊野へと旅は進みます。当時熊野は極楽浄土の入り口として信仰を集めていた聖地です。人々は熊野^{くまのこどう}古道をたどり、沿道に設けられた99の王子と呼ばれる社^{やしろ}にお参りをしながら参詣の旅をしたと言います。100番目が熊野神社で、当時としては大変な^{じゆんれい}巡礼の旅でありました。

いよいよ道は険しくなり、熊野神社に近づく中で1人の僧に出会います。一遍上人は「一念の信心を起こして南無阿弥陀仏と称えてこの念仏の札をお受けなさい。」そう言って渡そうとしたところ、この僧は「今は一念の信心がおきません、それなのに受け取れば嘘^{うそ}をつくことになってしまいます。」と言って受け取ろうとしません。

そこで「仏の教えを信じる心がないのですか？有るならどうしてお受けにならと言うことがありましよう。」とその僧に^{たず}尋ねます。「仏の教えや経文を疑う訳ではないが、信心の起きないことはどうにもなりません。」2人の^{ろんそう}論争がはじまってしまいます。そのうちに、周りには人だかりが出来てしまいました。一遍上人は、この僧がお札を受け取ってくれないと、周りに集まってきた人たちは誰も受け取ってくれなくなると、きっとあせったのでしょう、「信心が起きなくてもお受けなさい。」と、強引に念仏のお札を渡されます。この僧が受け取ったので周りの人々にも受け取ってもらえ、^{こと}事なきを得たのですが迷いが生まれてしまいます。いつしかその僧の姿は消えてしまったとも伝えられています。

迷った一遍上人は、本地が阿弥陀様と信じられていた熊野神社の^{しようじょう}証誠殿に籠もり祈りを^{ささ}捧げられます。いつしかうとうととなった時、白髪^{やま}の山伏が300人程の山伏を連れて現れ「融通念仏を^{すす}勧められる聖よ、あなたの^{ひじり}勧める念仏は間違っていますよ。あなたが勧める念仏で人々が極楽往生する訳ではありません。人々の極楽往生は、^{じゆつこう}十劫という遠い昔に法蔵菩薩が^{ほうぞうぼさつ}大変な修行をなされた結果、阿弥陀仏になられた。その時既に一切の人

々が極楽往生することが約束されているのです。ですから信心があるとか身分が高い低いとか関係なくその札を配りなさい。」と教示きょうじされました。



これ以降、一遍上人は迷うことなく50歳でなくなるまでお念仏の札を配られることになります。この出来事を第二の悟りとし、時宗りつきょうかいしゅうでは立教開宗とされています。また中世、時宗ちゅうせいの念仏は『神勅念仏』と称されました。

一遍上人は『踊り念仏』をされたことでも知られています。弘安二年(1279)信州善光寺もうに詣でた後、佐久さくの伴野ともというところで歳末別時念仏会さいまつをされている時にはじめて紫雲しうんが立ちます。人々は喜びのあまりお念仏を称えながら踊り出してしまいました。それ以降時宗ぎょうぎの行儀ぎよぎになったとされています。今では、僧侶のするものを『踊躍念仏』ゆやくねんぶつと言い、信者さんがされるのを『踊り念仏』と別々になってしまいましたが、もとは同じものであります。この『踊り念仏』が、後に『盆踊り』ぼんおどになったと考えられています。日本人になじみ深い『盆踊り』が一遍上人を起源とするものであったとは驚きですね。

一遍上人の教えに『捨ててこそ』すがあります。私たちは様々な執着しゅうじやくを持っていますが、つまらないことにしがみついているのではたった一度しかない大切な人生を見失ってしまうことにもなりかねません。いらぬ欲望は、我が心を苦しめるだけです。

我が身そこを損なうあらゆるものを捨て去りなさい。極楽往生を願うことも、地獄おに墜ちたくないという思いも、阿弥陀様に全ておまかせすればよいのだという教えであります。

*このお念仏のお札をくばることが出来るのは遊行上人に限られています。

(例外として、お上人様から直接御賦算ごいんだいをするようにと依頼されて御院代様(次期お上人になる方で、選挙で選ばれます)がなされる場合があります。)御親教の際には、法要の終了後などにお上人様から直接一人一人に渡して下さいます。表紙の写真は、本山遊行寺の本堂で行われた御賦算ごふざんの写真です。

このお札は、一遍上人以来代々の遊行上人により一枚一枚木版もくはんから刷すり出されます。100枚ずつ紙こより繕くぼりりでまとめられていて、毎日何枚配られたかが記録されます。

一遍上人は16年間の間に251,724人の人々に配られたと『一遍聖絵』に示されています。代々の遊行上人の配られた数も集計、記録されています。

『南無阿弥陀仏・決定往生六十万人』と刷られています。『六十万人』とは、一遍上人が悟りの境地を示された4句の偈文げもんの頭文字とされています。また、全ての人にくばるとしても、区切りが必要であるからとも言われています。

せっかくの機会ですから、青蓮寺に対しての理解を深めてください。

【1】青蓮寺の沿革

青蓮寺は、天正3年(1575)桐生氏を滅ゆらなりしげぼした由良成繁により現在地に建立された寺です。伝えによれば、新田郡岩松郷につたぐんいわまつごう(現在の太田市尾島おじま)にあった岩松青蓮寺を解体移築したものとされていますが、青蓮寺の名前だけを持ってきたようです。



(一部は移築として移されたかも知れないが詳細は不明。なお、青蓮寺の本堂の柱は安土桃山期の特徴を残すものであると言われており、移築よりはむしろ新築に近いものと想像されます。)

岩松青蓮寺は、新田家ゆかりの寺で、寺そのものが新田の正統せいとうを表すものであったと考えられます。

岩松青蓮寺は、新田義重につたよししげの父源義国みなもとよしくに開基とされていますが、実際の開基は鎌倉時代末、6代後の子孫である岩松政経まさつねで弘安元年(1278)頃ではないかと言われています。(岩松青蓮寺縁起より抜粋：八幡太郎義家はちまんたろうよしえの3男、義国よしくに後に仏門びつもんに帰きし義国院ぎこくいんと称す。その後新田義重につたよししげの玄孫いん岩松時兼いわまつときかね嘉禄2年岩松郷の地頭じとう職しやくに任にんせられ、その孫新田政経につたまさつね岩松やかたの館やかたに住し義

国の法灯を伝承し、岩松郷に一字の伽藍^{いちう がん}を建立し、岩松山義国院青蓮寺という。建治年間(1275)僧一遍上人東国に法を弘むるの際 上人^{きえ}に帰依し、時宗に入る。…… 国宝『一遍聖絵』には、一遍上人は弘安2年冬に信州佐久に、その後下野国小野寺^{おの でのら ゆうだち}(夕立の記述)、白河の関^{しらかわ}と順に描かれていて弘安3年(1280)に岩松の地を通過した可能性が高いので、岩松青蓮寺縁起の記述は、ほぼ正確ではないかと考えられる。)

新田郡岩松郷にあっては、長樂寺^{ちやうらくじ}と並び立つ由緒寺院であった青蓮寺は、新田家、またその先祖である源氏の正統を示す寺として代々子孫に大切に守られてきたことが窺^{うかが}えます。

由良成繁の時代、既に新田氏も足利氏も衰退しており、由良成繁が「自分こそが源氏の、新田の正統^{こじ}である」と誇示するための寺でありました。そのためには、寺の名称は「青蓮寺」でなくてはならなかったのではないかと推測^{すいそく}されるのです。

その後、天正18年(1590)に豊臣秀吉の北条攻め^{ほうじようぜ}があり、関東武士として当然北条方に荷担^{かたん}した由良氏は、慶長3年(1598)、牛久へと国替え^{うしく くにが}になり、その時点で青蓮寺は外護者^{げごしゃ}を失い、放置されるに至ります。

その後青蓮寺は、由良氏の残された家臣の一部によりかろうじて保たれ、現在に至ります。牛久に国替えになった由良氏にとっては、もはや一族の象徴としての青蓮寺は意味をなさなくなったのでありましょう。

歴史のいたずらにより、桐生に時宗の寺院が開山され、歴史のいたずらでこの地に残された。そんなことをも今に伝える寺でもあります。

【2】青蓮寺の本尊様について

平成19年3月16日に開催された国の文化審議会は、文部科学大臣に対して、青蓮寺の本尊様^{どうぞうあみだによらいおよびりょうきょうじりゅうぞう}「銅造阿弥陀如来及両脇侍立像」(善光寺三尊仏)を国の重要文化財に指定するように答申しました。

伝記によれば、源頼義^{みなもとよりよし}が融通念仏^{ゆうずうねんぶつ}を信仰してこの仏を守り本尊とし、その後八幡太郎義家の三男義国に伝えて代々守り本尊とした。その後、新田義重^{よししげ}に伝えてから代々の新田氏守り本尊となり青蓮寺に伝えられたと言います。すなわち、この善光寺三尊仏を守り本尊とするものが源氏の、新田

氏の正統である証^{あかし}となります。

中尊阿弥陀如来^{ちゅうそんあみだによらい}は台座共で44.6cm、脇侍^{きょうじ}は向かって右が観音菩薩、左が勢至菩薩^{せいし}で、それぞれ33.2cm・33.3cmです。

先ず本尊様の信仰の流れについて説明いたします。平安時代の末から鎌倉時代にかけて、世の中が大変乱れるようになりました。時を同じくして末法思想^{まっぽうしそう}も起こってきます。そんな、明日をも知れぬ中で人々は三国伝来^{さんごくでんらい}とされる善光寺の阿弥陀様に救いを求めました。善光寺信仰と言われるもので、沢山の人々が善光寺^{さんけい}に参詣しよう^{さんけい}と押しかけたわけです。「牛に引かれて善光寺参り」等の説話も生まれています。

とは言うものの、誰もが善光寺にお参りできるわけではありません。お参りできない人々の方が圧倒的に多かったことでしょう。何とか善光寺にお参りしたい、そんな人々の願いの中で、「新善光寺」と称する寺が全国、あちらこちらに建立されるようになります。

同様に、善光寺の本尊様^{ようしき}と同じ様式の仏様も多数造られたのです。この仏様^{ぜんこうじさんぞん}のことを善光寺三尊と称します。青蓮寺の本尊様も、その流れの中で造られた仏様であります。

時宗は宗祖一遍上人が、修行中に、また悟りを開かれた後に善光寺を参拝され、善光寺の本尊様^{あつ うやま}を篤く敬いました。ですから、時宗の寺々の中には、新善光寺と称される寺が、また本尊様は阿弥陀三尊の形式が多く見られます。当然善光寺三尊そのものを本尊とする寺もあります。青蓮寺もその一つであります。

ですから、建治年間(1275)僧一遍上人東国に法を弘むるの際 上人に帰依し、時宗に入る。……とあります岩松山縁起と併せ推測すると、そのころ造られた仏様である可能性が高いと考えられます。

その仏様を、代々大切に守り伝え、源氏の、新田氏の、岩松氏の正統としての象徴に位置づけたのではないのでしょうか。本来岩松青蓮寺にまつられてきた仏様なのか、また江戸時代、天明年間に書かれた古文書にその名が記されている安養寺の本尊であったのか。または、代々の当主が身近に置いて日々手を合わせていたのか。後日の研究を見守りたいと思います。

指定の理由としては、

各ちゅうどうせいとぎん鑄銅製鍍金。鎌倉時代に流行したいわゆる善光寺式阿弥陀三尊像の一例である。

鎌倉時代金銅仏の中で、い あ鑄上がりの見事さ、別にちゅうぞう鑄造した部位を取付ける技法を多用する手の込んだ作技など、技法的にもっとも高水準の作品であり、またその彫刻としてのできばえも鎌倉中期の作品として優れた部類に属する。とあります。

また、善光寺三尊としては極めて精巧な造りであり、木彫を感じさせるような優美さがその特徴であることから、とても姿が美しく優れた仏様であると、研究者の中では良く知られておりました。そして、青蓮寺の歴史を研究された方々からは「この場所で失われずに残ったことは奇跡に近い」とまで言われています。

主を失った仏様でありましたが、今日まで沢山の方々の思いが込められ守られてきた仏様であります。素晴らしい先人に恵まれたことに、心から感謝したい思いであります。

【3】お ま え だ御前立ち阿弥陀如来由来

平成7年秋、御前立ち（阿弥陀仏立像）の解体修理をしたところ、体内から古文書が二つ発見されました。それまで御前立ちの由来は全く不明でありましたが、この体内文書により詳しいことが判りました。体内文書は写真に撮影した後、新たに住職の文書を加え再度阿弥陀様の体内に納められて、次の修理があるまでの間永い眠りに就いています。



この阿弥陀様は、かんえい寛永12年(1635)に江戸浅草の浄土宗正覚寺しょうかくじ二代住職でありましたえいかん栄感上人が、近在の多くの人々の寄進を受けて、うんけい仏師運慶の末流・鎌倉の仏師宗意により造られたことが明らかとなりました。

その後この阿弥陀様は火災に遭い傷んでしまいましたので、寺の蔵にしまわれてしまいます。(江戸は何度も大火に見舞われており、その後も火

災に見舞われているようです。)

正覚寺の九代住職となられた念徹上人^{ねんてつ}は、たまたま新宿村、福田家の出身でありました。(現在の桐生市新宿で、福田家も存続しています。)

自分の生まれ故郷に近い久方村にある青蓮寺の話がその耳に届いたので、「檀家わずかに15軒の貧乏寺があり、やっとの思いで本堂を大改修した。しかし本尊様が秘仏^{ひぶつ}のため本堂に入ってもがらんとした空間だけで拝む仏様もないと檀家が嘆^{なげ}いているという。自分としてはこの話を聞いて身が切られるような思いである。それならばと、蔵に入っていた阿弥陀様を修理して青蓮寺に納め、85歳で亡くなったお母さんの供養にしよう。文書と、お母さんの遺髪、形見の念珠が体内に納められています。

正覚寺九代住職念徹上人の手により書かれた文書^{きょうぼ}は享保8年(1723)に書かれたものであり、当時の青蓮寺の困窮^{こんきゆう}した状態や、桐生の福田家の出身であること、両親の戒名等も書かれています。その時の青蓮寺は十二代住職^{がんせつ}含雪和尚でありました。

時宗の寺になぜ浄土宗のお坊さんの立派なお位牌があるのか、これは長いこと大きな謎でありましたが、この文書により謎が解けました。青蓮寺にとっては、大恩人であります念徹上人のお位牌が今日まで大切にまつられています。

また、本尊様は江戸時代中期、既に秘仏であったことも分かりました。

【4】欄間彫刻並びに須弥壇^{らんまちょうこく しゅみだん}



青蓮寺は大変な貧乏寺でありました。これは明治まで続きます。そのためでしょう、寺には住職が不在の期間が多くあったようです。(無住寺)

ある時などは、流行病^{はやりやまい}のための隔離場所^{かくり}にもなっていたようです。ですから文書類はほとんど失われていて寺にはありません。

そんな寺に不釣り合いとも言えるのが、欄間彫刻と総ケヤキ造須弥壇です。写真は龍の一木彫り、迫力満点です。

欄間の彫刻には『延享元歳(1744)甲子九月吉日 東上州 花輪村
彫物師 石原吟八郎義武 彫之』と銘文があります。内陣、下陣の内側にある彫刻類は同時期の作ではないかと考えられています。下陣外側にある菊水を模した欄間の彫刻はちょっと違う感じがしますが銘はありません。

須弥壇には『武蔵国妻沼町大工 林 兵庫 門弟作 小林武助 内田清八 四月朔日丈八 今村勘六 内田惣助 源内 延享二乙丑天八月吉祥日 当山十三世但阿良山代』と銘文があり、近在の一連の彫刻群の中でも古いものであります。共に大変素晴らしい彫刻で、驚かれる方が多いようです。

さて、青蓮寺は檀家十五軒ほどの貧乏寺と書きましたが、ここで桐生の経済についてお話しします。

お前立ちの阿弥陀様が青蓮寺に来られたのは、体内文書から享保8年(1723)の頃に間違いがありません。そのころは本当に貧乏寺であることに疑う余地はないようです。しかし、それからわずか二十年も経つと、今度は一度に欄間の彫刻と、「こんな須弥壇が日本にもあったのですか。」と修理の時に職人を驚かし、言わせた須弥壇の普請をやってしまいます。どう考えても、大改修間もない本堂をまたいじる。本堂一つ建てるぐらいの費用は必要はずです。

実はこの時、桐生は空前のバブル景気に湧いていたのです。機場の経済は浮き沈みが激しいようです。これが今日まで桐生の気質になっているように思えてなりません。儲かったときにはとてつもないことをしてのけるが、バブルがはじけてしまえばそこで途切れてしまいます。

そしてまたバブル。またそこでとてつもないことをしてと、継続性に乏しいのです。こんな一面が青蓮寺の彫刻群からも読みとれるようです。

彫り師石原吟八郎義武は、当時名人と言われ、彫り師集団の頭領でしたから、通常では直接手がけることはいくらお金を積まれたとしても考えられないので、特別な配慮があったのではないかという研究者もいます。

当時、青蓮寺は新田義貞公の菩提寺であると称していたようです。このことは、お前立ちである阿弥陀様の胎内文書に『新田義貞將軍の菩提寺である』と書かれています。その先祖の菩提寺と言うよりも都合が良かったのでしょうね。

【5】永代供養墓苑 『アユスの郷』



お墓を守るべき人がいない、このままでは無縁むえんになってしまう。そんな状況下にある方にとっては、ご自身の没後ぼつごのことは切実な問題です。『墓も戒名も要らない、まして葬式などもってのほか。』という方で有れば心配することもないでしょうが、現実にはそうは割り切れるものではないのが本音ではないでしょうか。自分がこの世に生きた証あかしとして、また終ついの棲家すみかとしてやすのこころ安らぐ場所えを得たい。しかし永代供養にかかる費用など、問題も多くあります。

これらの問題をクリアし、しかも一人一人の・夫婦の・家族のお墓を確実に残す画期的な永代供養墓苑ぼえんを開設しました。男性にはお地藏様、女性には観音様、ご夫婦には道祖神型、家族には阿弥陀様型の石仏を用意し、極めて安価でもって末永くお祀りしようとするものです。

永代供養墓苑入会志納金は、現時点で個人型28万円・夫婦型54万円・家族型70万円で受け付けています。（今後石仏制作費の上昇等の状況に応じて変更させていただくようになります。）遺骨は一部をインドで制作したオリジナル舍利容器しやりようきに納め石仏の台座内に、他はアショカピラーに合葬という形式になります。

アショカピラーの前にはクリシュナという霊石に彫られた仏足石と、インド仏跡のお砂踏みが設置されていて、お釈迦様を感じるインドゾーンとなっています。今風に言えばパワースポットということが出来ましょう。

【6】インド仏跡ぶつせきへの散骨供養

永代供養墓苑アユスの郷を建設するにあたり、お釈迦様の、仏教の故郷であるインドにとことんこだわりました。インドの国章であるアショカピラー、大理石製の舍利容器、インドの聖地お砂踏み等々・・・

その結果、供養の一つのあり方としての散骨を提案しています。故人の遺骨の一部をお釈迦様の聖地（ガンジス川と尼蓮禅河にれんぜんがを推奨）に散骨しようとするものです。

【7】ペット供養

可愛がっていたペットが死んだら、是非ペットのお墓に葬^{ほうむ}ってあげることをお勧めいたします。また、お子さんの情操をはぐくむためにも、事情が許す限りペットを飼われることをお勧めいたします。



【8】半僧坊大権現

大正年間に、四十二代住職亮海和尚により勧請された半僧坊大権現は、天狗様^{てんぐさま}として多くの方々に親しまれています。

毎年4月の第二日曜日に大祭を開催します。時節柄桜の花の下でのお祭りとなります。

なお、大祭当日は、「厄除開運・交通安全」の護摩札^{ごまふだ}を受ける善男善女でにぎわいます。

【9】檀家としての資格要件^{しかくようけん}について

青蓮寺は、一遍上人の教えを信じる人たちの集まりです。次のことが保^{たも}てなくなった時には檀家としての資格条件を失います。

①時宗の教えに従えなくなった時。(他の宗教^{にゆうしん}に入信した場合等)

青蓮寺は時宗の、一遍上人の念仏の教え^{むね}を旨とします。時宗の教えを誹^ひ謗^{ぼう}し、他の宗教を勧めるような状態になれば時宗の信徒とは認められません。速^{すみ}やかに墓地を返却して離檀して頂くこととなります。

②檀家としての責務^{せきむ}が履行^{りこう}されなくなった時。

やむを得ない事情を除き5年間以上墓参がなく(せつかく墓参されても、寺にあいさつがない場合には、墓参がないと判断してしまう場合がありますので、必ず声^かを掛けて下さいますように。)なおかつ寺^{れんらく}に何の連絡も、清掃料^{せいそう}等の納付^{のうふ}も無い状態が続いた場合。

③住所地を明らかにし、常に連絡が取れる状態であること。

音信不通となり5年経過した場合。(転居した場合には、必ず新住所・電話番号等をお知らせ下さい。)

*最重要な資格要件のみを示させていただきます。細部は住職に尋ねて下さい。

【10】檀家としての心得

- ①墓参に際しては本堂で本尊様への参拝を行いましょう。
- ②寺の諸行事に積極的に参加しましょう。
- ③墓地の工事を行う場合には事前に住職の承認を受けて下さい。
- ④時宗の教義によらない方の埋骨は出来ません。
- ⑤寺からの『お知らせ』をよく読み、指示に従って下さい。
- ⑥墓地の状態をよく確かめ、維持管理を図って下さい。
- ⑦意見や要望がある場合には遠慮しないで住職へ申し出て下さい。
ただし匿名は慎んで下さい。よりよい寺にするために協力をして下さい。
- ⑧自分が生きてゆく上でなくてはならない場所であると考えて下さい。
よく申し上げることなのですが、自分が生きてゆくために必要な場所であると思えないなら布施をする必要はありません。檀家であること自体が不幸なことだと思います。自分にふさわしい場所に移って下さい。
- ⑨生かされていることを自覚しましょう。

【11】ご法事に際して

- ①5・7日忌（35日忌）、満中陰忌（49日忌）
当日までに用意するものとして
お位牌を作ります。墓誌・墓石に戒名を彫ります。
当日持参するもの お布施の他には
お膳、白木のお位牌、7本木（7本塔婆）、遺影、お位牌、お団子、墓地用生花、お線香（寺にもあります）などです。
- ②年回忌 お布施・塔婆料の他には
お位牌、墓地用生花、お線香などです。遺影は不要です。
- ①②どちらの場合にも必ずではありませんが
本尊様用生花（一对）、お供物（二盛り）などがあります。生花料・お供物料とされる方もあります。決まりはありませんので、おまかせ致します。
*ご法事の申し込みは2ヶ月前から受け付けます。申し込みや確認は電話やメールでも構いません。分からないことがあったら遠慮しないでお尋ね下さい。

【12】お仏壇の飾り方

・中央に阿弥陀様の立像（舟形光背りつぞう ふながたこうはいが望ましい）、阿弥陀様の左右に宗祖一遍上人と二祖真教上人の掛け軸をお祀りすることもある。

・お位牌は下段にお祀りします。

・常花じょうか、たかつきについては一対（小さい仏壇の場合には無くても構いません）。お膳（ご飯とお茶お水用の器）。手前中央に香炉、向かって右側にお線香・灯明・マッチ消し等、左側に生花、おりん。

*仏壇にはお酒は供えない。タバコをお線香代わりにあげない。が基本です。また、ご飯やお茶もしくはお水は、毎朝新鮮なものをお供えします。夕方には必ず下げて下さい。

生花、お供物は少しでよいので、出来るだけこまめに替えて下さい。

お仏壇の飾り方については、開眼かいげんの時説明させて頂いています。仏壇を新調された場合には開眼供養をします。その時に、飾り方については説明させて頂いています。不明な点がありましたら住職に確認して下さい。

【13】お寺は皆さんが生きるために

いじめによる自殺を小学生までがする時代になってしまいました。実に残念なことです。しかし、お寺は古来より『か駆け込み寺』と言われるように、困ったときには救いを求めて逃げ込む場所です。

誰にも言えない悩みなやを抱えてしまったら、お寺に行って仏様にお話をしようね。ご先祖様がちゃんと聞いてくださるから、安心してお寺に行ってください。住職も話を聞いてくれるからね。お子さんがいらっしゃる方は、日頃からお子さんに話しておいてください。

子どもだけではありません、沢山の方が悩みや苦しみを抱えてお寺を訪れます。遠慮することはないのです。安心して誰もがお寺に来て良いのです。お寺は、仏教は、一遍上人の教えは、生きている人のためにあるのですから、どうかお寺を活用してください。

青蓮寺は、誰も来ない日がないと言われるぐらいに良くみなさんお参りに来られています。命の洗濯場です。

【14】Eメールアドレスの登録を

寺のことを理解して頂くため、メールでお知らせ等の配信はいしんをします。年2回の『お知らせ』以外に、随時情報発信をすることが出来ます。

特に若い人や、家を離れて生活している家族のみなさんには、寺の情報が伝わらないことが多いと考えます。そんな方にお寺についての理解や、近親感を深めることに役立つと思います。

今や、インターネットやメールは日常の生活の一部となりつつありますので、大いに活用したいものです。Eメールアドレスをお持ちの方それぞれに登録して頂くことをお願い致します。(若い人に見せて下さい)

【15】蓮の寺です 現在13種類の蓮があります。



青蓮寺には多くの草木くさきがあり、四季折々に花を楽しむことが出来ます。『蓮』の字がつく桐生市内唯一の寺で、蓮や睡蓮をたくさん育てています。

蓮は7月中旬から次々に咲きだしますが見頃は早朝になります。遅くても午前10時ぐらゐまでで花が閉とじてしまいます。

温帯睡蓮は6月になると咲きだします。熱帯睡蓮は蓮よりも時期が遅くなりますが10月中旬ぐらゐまで咲き続けます。どちらも見頃は朝になります。

春先になると藪やぶつぼき椿が咲き出します。はるのお彼岸頃には白木蓮が、4月には桜が、その後を追うようにツツジが山肌いりどを彩ります。6月の末になるとねじり花が芝生をピンクに染めます。紫陽花もあちらこちらで咲いています。甘茶の木や泰山木も咲いています。年間を通して花は絶えません。

お参りを兼ねて花を見て楽しんで頂きたいといつも思っています。ちょっと時期を変えると新たな発見があるはずです。。

◎ 生命保険や預貯金・年金についてまとめておきましょう

種 類	保険会社・銀行名など	証券番号・口座番号など
連絡先・担当者・電話番号など	保管場所	

主な知人、友人の氏名・住所・電話番号・関係など

氏	名	〒	住	所
電話番号	関		係	

◎その他伝えたいことなどを書いておきましょう



雨上がりには仏足石に水がたまり、アショカピラーが水面に映えています。

平成23年の御親教に際してこの冊子をまとめました。

宗祖一遍上人や時宗について。また青蓮寺の歴史や事業について解説してあります。また巻末には有れば便利な書き込み欄もあります。手元に置いて活用されますように。

- ◎ 宗旨：^{じしゅう}時宗 ◎ 宗祖：^{しゅうそ}一遍上人
- ◎ 本山：^{かながわけんふじさわし}神奈川県藤沢市西富町 ^{しょうじょうこうじ}清浄光寺（^{ゆぎょうじ}遊行寺）
- ◎ 寺の正式な名称：^{めいしょう}仏守山 ^{ぎこくいん}義国院 ^{しょうれんじ}青蓮寺
- ◎ 住所：桐生市西久方町1丁目10番11号
- ◎ 電話：0277-22-5268 FAX：0277-44-9085（自動受信）
- ◎ ホームページ：<http://www.shorenji.or.jp>（『^{しょうれんじ}青蓮寺』で^{けんさく}検索可）
- ◎ 法話専用ページ：<http://www.shorenji2.com>（『^{しょうれんじ}青蓮寺・法話』で）
- ◎ メールによる問い合わせは info@shorenji2.com（^{へんこう}変更しました）
- ◎ ^{ゆうびんふりかえこうざ}郵便振替口座：00380-6-2335